

第1回むつ総合病院新病棟建設基本構想・基本計画策定委員会議事録概要

日 時：2020年（令和2年）8月26日（水）13：00～14：48

場 所：公済会館 大ホール

出席者：会議資料1 委員・顧問一覧参照

1. 開会

第1回むつ総合病院新病棟建設基本構想・基本計画策定委員会の開催宣言

「平野院長（大間病院）」及び「基本構想基本計画策定委託業者」がWeb で委員会参加

2. 委嘱状の交付

委員及び顧問の委嘱状は、机上配布

3. 管理者挨拶

宮下管理者（下北医療センター管理者、むつ市長）挨拶

【報道関係者退席】

4. 委員長、副委員長の選出

むつ総合病院新病棟建設基本構想・基本計画策定委員会、条例第5条の規定に基づき、委員長及び副委員長を選出

- ・委員長：橋爪 正院長（一部事務組合下北医療センターむつ総合病院）
- ・副委員長：三上 史雄会長（むつ下北医師会）

5. 議事

（1）今後のスケジュールについて

資料3を用いて、今後のスケジュールの説明を実施（病院事務局）

第1回（8月26日）にて基本構想素案を審議、第2回（9月30日）・第3回（10月28日）にて基本計画素案を審議、第4回（11月25日）にて基本構想・基本計画案及びパブリックコメント実施要領を審議、第5回（1月27日）にて答申案（2月予定）を審議する予定

（2）むつ総合病院新病棟建設基本構想素案

パワーポイントを用いて説明を実施（病院事務局）

新病棟の建設においては、6項目のコンセプトを大きな柱として計画

- 1 「医療環境の変化を見据えた機能の向上」
- 2 「大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備」
- 3 「高度先進医療、がん治療の推進」
- 4 「高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進」

- 5 「患者・職員満足度の高い環境の整備」
- 6 「金谷公園との一体的な機能の整備」

(3) 質疑事項

【基本構想素案全体を通しての質疑】

① 6つのコンセプト（大きな柱）の元となる「方向性の大きなテーマ」の必要性について

- 方向性を合わせて議論するには、同じ方向性のテーマが必要。
- 将来の目指す方向性を示すひとつの言葉（キャッチコピー）が必要。
- 下北地域保健医療圏域に将来的に住み続けるテーマが必要。

回答⇒第2回策定委員会において「テーマ案」を提示して検討する。

② 建替え対象を病棟とする理由およびその範囲ならびに外来との機能連携について

- 今回の建替え検討範囲がわからない。

回答⇒今回の検討は、外来棟を継続使用することを前提とした病棟の建替えが基本である。

対象部門等の詳細に関しては、第2回策定委員会において「地図」「平面図」などの資料を提示して検討する予定である。外来棟は、平成に建てられた建物であるが、病棟は、昭和52～53年に建てられた建物であり、耐震が不十分で、なるべく早く建て直す必要がある。今回は、病棟部分の建替えを基本とする。

- 病棟の建替えにおいては、外来機能との連携検討が必要。

回答⇒基本計画の審議時に、動線を配慮して検討する。

【6つのコンセプトに対する質疑】

1) 「医療環境の変化を見据えた機能の向上」に対する質疑

① 「地域医療構想」との関連

- 青森県としては、「地域医療構想」を十分踏まえた計画であり、高度専門医療・回復期・在宅・予防医療等にこの通り進めて頂ければ問題ないと考えている。災害面に関しても同様である。（

② 「回復期病床」の新規整備

- 下北地域保健医療圏域において、回復期病床の増床は必要である。地域包括ケアシステムなど、一貫した医療の提供体制が必要である。

③ 医療環境の変化（入院需要の減少）時の対応計画

- 将来、入院需要が減少した場合の病床対応は、どのように考えているか。

回答⇒建替え時の個室数などは、基本計画の方で審議する。将来の患者減少を前提に、4床室（4人部屋）を個室（1人部屋）2つにして、病床数を変化させる考え方である。

2) 「大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備」に対する質疑

① 新型コロナウイルス対策

- 市民の皆様の非常に大きな関心事が新型コロナの感染症の予防対策である。

現在、第二種感染症指定医療機関として、感染病床が4床あるが、入院患者が急増した場合に

柔軟に対応できる計画を取り入れていただきたい。

クラスターが起きないようにレイアウト導入などもコンセプトに入れてもらいたい。

②ヘリポートの設置

- 新病棟建設時にヘリポートを設置しないのか。

回答⇒ヘリポートの設置は、大きな課題と認識している。

回答⇒地上のヘリポートであると、ヘリコプターの複数の入口が確保できない可能性が高い。

病院屋上のヘリポートであると、冬場の雪や風などの影響で、実用性の面で設置が難しい。現在のところ、非常に難しいという判断をしている。

3)「高度先進医療、がん治療の推進」に対する質疑

①弘前大学の支援

- 計画全体としては、地域完結型医療を提供できる病院であることが重要である。地域住民が安心して、普通の治療や当たり前の治療ができる環境を作ることが、地域住民の幸せに繋がる。計画にある「高度先進医療」は、通常の医療と認識している。「がん医療」や「手術支援ロボット」は、保険診療になっており、当たり前の医療として捉えるべきである。

弘前大学は、地域の方々が、その時代の治療が受けられる支援策として、「遠隔医療」を検討している。むつ総合病院と弘前大学の連携によって、将来的に「遠隔医療」は、通常医療となる。

②弘前大学との連携

- 先進的な医療に関しては、弘前大学と連携し、オンライン等を使って治療ができると良い。低侵襲の治療などをむつ市、下北地域の住民が受療できることが望ましい。

③遠隔医療事業

- 遠隔医療事業を進められるのであれば、大間病院やへき地の医療機関から相談することも多いと思われる。具体的な連携方法に関しては、今後、ご相談させていただくことになる。

④高度医療機器の整備

- 高度医療機器について、がんのPET検査などの具体的な将来整備の項目は、挙がっているのか。

回答⇒例えば、手術支援ロボット（ダヴィンチ）はコンセプトに明記している。他の医療機器については、基本計画の審議時に検討する予定である。

4)「高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進」に対する質疑

①療養環境の向上

- 6床室（6人部屋）は、狭いと感じている。新病棟では、4床室（4人部屋）か個室を基本として、療養環境の改善が必要である。

回答⇒認識は同じである。具体的には、基本計画で、審議する。

5)「患者・職員満足度の高い環境の整備」に対する質疑

【質疑事項なし】

6) 「金谷公園との一体的な機能の整備」に対する質疑

①シンボルとしての多世代交流のコミュニケーション・インフラ

- 公園と一体化した多世代交流のコミュニケーション・インフラは、近年、同様のコンセプトで全国的にいくつかの事例がある。下北地域のシンボリックな施設になると考えられる。具体的な事例を踏まえて、市民の方や医療受従事者の方と共有、ご意見を頂いて進めて頂くと、より良いものができる。

7) その他意見

①各団体からの意見

- 歯科医師会としては、もう少し具体的な話の審議段階で意見をさせていただく。
- 薬剤師会の仕事としては、「高齢者医療」等に関係してくる。具体的な内容が見えてきた段階で、薬剤師会の内部で検討したい。

②市民団体・住民公募からの意見

- 高齢者が期待できる新病棟になるよう、高齢者の方々から意見を聞き反映させたい。
- 新病棟建設に期待している。今後の検討を進める中で、いろいろ意見を述べたい。
- 商工団体を通して、事業所を通して、何ができるのか、尽くさせていただきたい。

6. その他

第2回むつ総合病院新病棟建設基本構想・基本計画策定委員会の開催案内

日時：2020年（令和2年）9月30日（水曜日）午後1時から3時

会場：公会館 大ホール

7. 閉会

第1回むつ総合病院新病棟建設基本構想・基本計画策定委員会の閉会宣言

以上